

# 西宝殿解体修理

## 1.概要

西宝殿は本殿の西側に北側の斜面寄りに南面して建つ。御祭神は東に若宮権現、中央に稲荷大明神、西に北辰救世がまつられている。

建物の大きさは桁行三間(約 5.0m)、梁間一間(約 2.1m)に中央間を一間(約 2.0m 奥行 1.75m) 突出し向拝とする。屋根は切妻造りで、銅板葺である。正面は蔀戸とし、出入口を東面に設け、他は板壁とする。

建築年代は宝暦 7 年 (1757) で「桁、破風拵蟻の墨書」で確認できた。その後の判っている修理履歴は嘉永 3 年 (1850) 塗装『柞原八幡宮文書』、明治 10 年 (1877) 屋根葺替『旧宮大工家文書』、明治 21 年 (1888) 向拝柱取替「柱墨書」、明治 44 年 (1911) 塗装『柞原八幡宮文書』、昭和 9 年 (1934) 修繕(木部・屋根・塗装)『柞原八幡宮文書』、昭和 34 年 (1959) 塗装『柞原八幡宮文書』、昭和 49 年 (1974) 屋根銅板葺『柞原八幡宮文書』



図 1 修理前西宝殿南東面



図 2 白蟻により柱の芯が喰われていた。

## 2.修理方針 【解体修理】

破損状況は建物全体に白蟻が入り、床組は腐朽が進行していた。経年による軒の垂下が見られた。破損が著しいため今回は(全)解体修理とした。

## 3.発見物

解体修理をしていると過去の修理の状況や昔の大工さんの仕事が分かってくる。西宝殿でも建物が建てられた年代や修理年代が判る墨書が発見された。

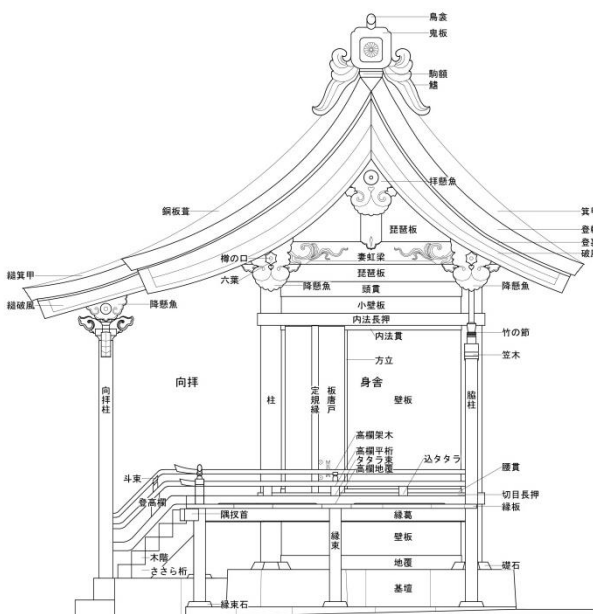


図 4 桁墨書  
「宝暦七丁丑年  
二月廿二日」

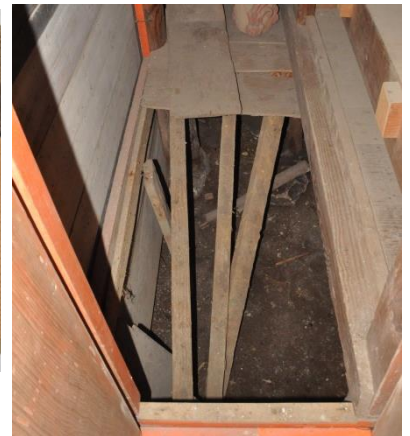


図 3 床の崩落



図 5 向拝柱墨書  
右：西柱「三佐新町 橋本伊助作  
明治廿叁年 子九月十五日」  
左：東柱「三佐大工 橋本伊助」

## 4.解体工程